

星城大学

学長 石田 隆城 様

星城大学 外部評価委員会

委員 西村 周三 (京都先端科学大学教授)

委員 金子 章道 (畿央大学栄誉教授)

委員 大橋 靖雄 (愛知学院大学名誉教授)

委員 出口 克美 (星城大学後援会長)

今年度はコロナ禍の猛威も収束し、外部評価委員会を対面にて実施することが出来ました。大学の自己点検評価として纏められた「自己点検評価書」を各委員において点検を行い、委員会での面談、回答をもとに各委員において再度点検・評価を行い、下記のとおりのおまとめとしました。

星城大学外部評価委員会 意見

2022年度は新型コロナウイルスへの対応を考慮しつつも、アフターコロナの大学の対応や教学・学生生活・募集方針等幅広い事柄について、大学がどのように考え、対処されてきたか理解することが出来た。中でも大学が考える「将来構想」に関しては、まだ検討を始めた段階で具体的ではないものの、これからの大学の在り方、進むべき方向を示す極めて重要な取り組みであり、また、この問題は学長をはじめ戦略会議のメンバーなど大学の中核におられる方々の最も重要な任務であり、責任であると考え。このような観点から今後この将来構想を教育の質の向上、募集戦略への足掛かりとし、より発展的で魅力ある大学にするため、具体的で実質的な検討に注力することを望む。以下、幾つか意見など列記する。

1. コロナ関連で苦勞をしたと思うが、適正な学生募集の維持に対して、現状2023年度になってからどのように受け入れ増加のために取り組んでいるか。昨年日本は出生率が激減し、2035～40年に外国人が倍増するような政策を打ち出した。少子化と海外からの受入れが人口減少対策である。外国人の受入れという観点から、留学生は非常に大切に、どのように留学生を受け入れるか。様々な摩擦が生じるため、日本人と留学生の交流をどのように取り持つか等、幅広く議論を重ねてほしい。
2. 人口減少における大学定員に対する入学者減によって、中教審では私立大学の再編や募集停止を行っても学生に不利にならない仕組みの構築が検討されている。社会に役立つ内容を大学で教えてほしい、魅力のある大学にしてほしい。貴学は小規模な学校であることを生かして個別の指導や手厚いサポートがされている。特に、一人ひとりに合わせた面談や、キャリアの支援を行っており、面談実施率が非常に高く素晴らしい。また、留学生への日本語試験のサポートも良い取り組みである。では、魅力のある大学とは何か。何を学生は大学に求めているのか。どのようにすれば、大学の魅力があるのか。世の中に出てすぐに役立つことを教えるのが良いか。

2023年11月1日

IT教育に力を注ぐのが良いのか。星城大学はどのような方向に進むのか。名古屋石田学園の中枢を担う方は真剣に議論いただきたい。

3. 星城高校は生徒数も多くスポーツ強豪校であるが、どうにか内部進学ができる環境整備ができないかと考えている。多くの人材が他大学に流出してしまっており、指導者確保が難しいとの話だったが、それがもったいないと感じている。また、課外活動を安全に行うための支援で、スポーツ施設の空調等環境が整っていないとあるが、学生の体調面の不安もあるので、後援会として協力できることがあれば、支援したい。

以 上